コロンビア定期報告（内政・外交：２０１５年４月）

I 概要

【内政】

●８日　列国議会同盟（ＩＰＵ）総会のカルタヘナでの開催中止発表

●１４日　ＦＡＲＣによる国軍襲撃

●１０～２０日　和平交渉第３５ラウンド

【外交】

●２日　ドイツによる和平交渉支援特使の指名

●８～１１日　オルギン外相のパナマ訪問

●１０～１１日　第７回米州首脳会議へのサントス大統領出席（於：パナマ）

●１６日　ミード・メキシコ外相の当国訪問

●１６～１８日　朴韓国大統領の当国訪問

●２７日　王超中国外交部副部長の当国訪問

●２７日　ブリンケン米国国務副長官の当国訪問

●２８日　ビエイラ・ブラジル外相の当国訪問

●２９～３０日　オルギン外相の第１３回太平洋同盟閣僚会合（於：メキシコ）

Ⅱ 本文

【内政】

１　列国議会同盟総会のカルタヘナでの開催中止

　８日，ナメ国会議長は当国カルタヘナで開催予定となっていた列国議会同盟（ＩＰＵ）総会の開催を中止する旨発表した。中止の理由は，コロンビアの経済状況及びサントス大統領が要請した緊縮財政措置への配慮であった。同総会の開催費用は約１２０億ペソ（約６００万ドル）と見積もられていた。

２　ＦＡＲＣによる国軍襲撃

　１４日深夜，カウカ県ブエノス・アイレスにおいて巡回警備中の国軍がＦＡＲＣによる襲撃を受け，１１名が死亡した（当初１０名が死亡，１５日に残り１名が死亡）。

　サントス大統領及びピンソン国防大臣は，カリにおいて安全保障会議を招集した。サントス大統領は，攻撃は意図的かつＦＲＡＣによる一方的停戦約束の破棄を意味する，国軍に対してＦＡＲＣ野営地への爆撃停止措置を解除する命令を出した旨述べた。

３　和平交渉第３５ラウンド

　上記襲撃事件が発生したものの，１０～２０日，和平交渉第３５ラウンドはハバナにおいて予定どおり実施された。同ラウンド後の双方の和平交渉団による発表は以下のとおり。

（１）デ・ラ・カジェ政府側和平交渉団長

　和平交渉は継続しているが，ゲリラへの信頼は大幅に失墜した。和平交渉が無期限化することを防ぐために交渉期限を設定する可能性もある。

（２）マルケスＦＡＲＣ書記局員

　昨年１２月に宣言した一方的停戦を維持する。和平交渉で進展した成果は維持されるべきであり，いかなる理由でも破棄されるべきではない。国軍兵士の殺害に関しては，国軍がＦＡＲＣに対する攻撃活動をしていたからであり（注：政府は空爆を停止していたのみで攻撃そのものは停止していなかった。），更なる詳細な調査がなされるべきである。

【外交】

１　ドイツによる和平交渉支援特使の指名

　２日，ドイツ外務省は，トム・ケーニッヒス連邦議会議員（緑の党）をコロンビアにおける和平交渉支援のための特使に任命した旨発表した。特使の任務は，ドイツ政府とコロンビア政府との間の連絡調整役となり，ドイツからの様々な支援を結集することである。

２　第７回米州首脳会議へのサントス大統領出席（於：パナマ）

　１０～１１日，サントス大統領はパナマで開催された第７回米州首脳会議に出席した。

（１）サントス大統領演説

　１１日，同首脳会議においてサントス大統領は演説し，麻薬との戦いにおける方針変更の必要性，気候変動対策の重要性，左翼ゲリラとの和平交渉及び米州教育システムの創設提案について述べた。

（２）オバマ米国大統領との会談

　１１日，サントス大統領はオバマ米国大統領と会談した。サントス大統領はオバマ大統領に対して和平交渉の進捗状況につき説明し，オバマ大統領は麻薬との戦いにおける成果につき関心を表明した。

　サントス大統領は，（元ゲリラ兵の米国への）引き渡しを停止するために，米国との外交協議を開始する予定である旨，また左翼ゲリラとの戦いに対して，米国がこれまで実施してきた援助を，和平妥結後の様々なプロジェクトのために形態を変えつつ継続してほしい旨要請した。

（３）オルギン外相のパナマ訪問

　８～１１日，オルギン外相は，第７回米州首脳会議及びそれに先立つ外相会合等に参加するためパナマを訪問した。

　９日，オルギン外相はケリー米国国務長官と会談し，会談後の記者会見で，２７日にボゴタで米国との第５回ハイレベル対話を実施予定である旨述べた。

３　ミード・メキシコ外相の当国訪問

　１６日，ミード・メキシコ外相が当国を訪問し，オルギン外相と会談した。同会談においては５月に予定されるサントス大統領のメキシコ訪問時の成果文書の確認がなされた。

４　朴韓国大統領の当国訪問

　１６～１８日，朴韓国大統領は，ペルー，チリ及びブラジルを含む中南米歴訪の一環として当国を公式訪問した。

　１７日，サントス大統領は，朴韓国大統領との首脳会談を実施した。同会談にはオルギン外相も含め，両国のその他閣僚も出席した。首脳会談においては，様々な二国間テーマを協議するとともに，インフラ，教育，農業，科学技術及びイノベーション分野での協力可能性が検討された。首脳会談後，両大統領立ち会いのもと，多国籍犯罪対策，保健・医療科学協力，新エネルギー分野での協力，貿易電子化システム向上のための協力，及びコロンビア国家開発基金（ＦＤＮ）と韓国輸出入銀行間の相互協力に関する覚書が締結された。

　共同記者会見において，朴大統領は，コロンビアは中南米唯一の朝鮮戦争参戦国であり韓国とは特別な関係を有する，協力関係を多角化すべく，新エネルギー産業，治安，保健，金融科学，インフラ構築事業など１８の協力プロジェクト関する覚書を締結した旨述べた。

５　王超中国外交部副部長の当国訪問

　２７日，王超中国外交部副部長は，ブラジル及び欧州を訪問する途次，コロンビアを訪問した。王超中国外交部副部長は，オルギン外相を表敬訪問した後，ロンドーニョ筆頭外務次官と会談し，政治，貿易，及び協力関係等の課題につき協議した。

　いずれの会談においても，５月２１日及び２２日に当国訪問が予定される李克強中国首相の受入れ準備に関連して協議がなされた。

６　ブリンケン米国国務副長官が当国を訪問

　２７日，アントニー・ブリンケン米国国務副長官が当国を訪問し，オルギン外相とともに米・コロンビア第５回ハイレベル対話の議長を務めた。同ハイレベル対話においては，起業，イノベーション，エネルギー，中小企業，英語教育等の分野につき協議された。

　同対話中，ブリンケン国務副長官は，米国は今後２年間で，対人地雷除去のため５百万ドルを追加支援することを計画している，２００６年以降，米国はＵＳＡＩＤを通じて対人地雷除去のために２１００万ドルの貢献をしてきた，ＵＳＡＩＤを通じて，今後５年間で，土地所有関連，市民社会の強化，及び紛争後の社会統合の促進に関する支援を予定している旨述べた。

７　ビエイラ・ブラジル外相の当国訪問

　２８日，ビエイラ・ブラジル外相が当国を訪問し，オルギン外相と会談した。同会談においてオルギン外相は，今後予定されているルセフ・ブラジル大統領の訪問を楽しみにしている旨述べたほか，ブラジルが提案した農業分野での紛争後の支援につき謝意を表明した。会談には，イラゴリ農業・地方開発相及びバジェホ環境・持続可能な開発相も同席した。

８　オルギン外相の第１３回太平洋同盟閣僚会合（於：メキシコ）

　２９～３０日，第１３回太平洋同盟閣僚会合がメキシコで開催され，オルギン外相及びアルバレス＝コレア商工観光大臣が出席した。同会合においては，太平洋同盟とオブザーバー国との関係につき協議されたほか，ペルーのウルバンバで開催予定の首脳会合に向けた準備の進捗状況につき確認された。